

平成17年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特11	学校名	県立勝田養護学校				課程	全日制				学校長名	本多 康博						
教頭名	百々塚 恭男		八重樫 隆二								事務(室)長名	仲沢 栄							
教職員数	教諭	105	養護教諭	2	常勤講師	14	非常勤講師	2	実習教諭, 実習講師, 実習助手	2	事務職員	3	技術職員等	9	計	137			
生徒数	学部		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計	クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	小学部	通学	19	4	5	5	10	6	14	7	8	1	8	5	64	28	2 2		
		訪問	2	1	0	0	2	0	1	0	2	0	2	1	9	2	4		
	中学部	通学	15	10	9	3	19	5							43	18	1 4		
		訪問	1	0	1	0	0	2							2	2	2		
	高等部	通学	14	9	18	11	21	0							53	20	1 3		
訪問		0	2	1	0	1	2							2	4	2			

2 目指す学校像

一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加の基盤となる生きる力を育む学校
 児童生徒の心や身体を健康づくりを推進し、明るく、清潔で安全な学校
 家庭・地域社会に関かれ、保護者等の願いや期待を受けとめ、信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	指導と評価の一体化を目指し、保護者と連携した指導を行うため、個別の指導計画を通知票と連動させるとともに、個別の教育支援計画の作成に当たっても活用する必要がある。	個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成に当たり、個人情報管理の徹底と保護者との連携・協力を一層進める。
校務分掌	教育相談支援部を新たに立ち上げたので、支援部業務の役割や業務内容の整理を行う必要がある。	特別支援教育の考え方に応じた相談支援部各業務の活動を充実させる。
交流教育	居住地校交流を実施するにあたり、地域と結びついた交流の意義を明確にさせる必要がある。	交流及び共同学習の一環として、地域への理解啓発をより深める。
地域支援	学校開放事業やボランティア養成講座等により一層の内容の充実が求められる。	学校施設の利用やボランティア養成講座参加者の積極的な活用を図る。

4 中期的目標

1	一人一人の教育的ニーズを確にとらえ、個別の教育支援計画を作成し、指導内容・方法の改善を行う。
2	家庭及び関係機関との連携を蜜にし、一人一人に適切な支援の在り方を研究推進する。
3	学級経営及び校務分掌の業務が円滑かつ適切に遂行できるように組織の調整及び運営の工夫をする。
4	教育相談体制を確立し、就学相談及び卒業生支援等、関係諸機関と連携した支援体制の充実を図る。
5	地域社会との連携を十分に図り、学校開放事業等、地域に開かれた学校づくりを推進する。
6	学校間交流、居住地校交流等、地域活動を基盤とした交流教育を推進する。

5 本年度の重点目標

重点目標	具体的目標	達成状況
1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を作成し、効果的な支援の在り方を研究推進する。 ・情報教育機器等の積極的な活用（授業研究，校内 LAN 等）を推進する。 	
2 地域を支えるための環境を整え、特色ある学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の体力・運動能力の向上を図った体力づくりを推進する。 ・交流活動（居住地校交流，地域交流，学校間交流等）を推進する。 ・安全で快適な学習環境の整備や美化に努める。 	
3 地域における開かれた学校づくりを推進し、本校教育の理解啓発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談業務（教育相談，就学相談，体験入学，学校見学等）の充実を図る。 ・学校施設開放事業を推進する。 	